

- 大学合格者数
- 祝！入学 74 回生
- 進路指導部の先生紹介

「良い勝負」

英語科 井 慎一郎

試合に負けると、いろんなことを考えてしまう。あの時こうしていれば状況はもっと良くなっただろうか。そしたら勝てた可能性もあったのだろうか、と。昨年、生徒達にとっては高校生として最後となったサッカーの大会を終えたときもそうだった。全員が最後の一秒まで走りきったが、「良い勝負」だったと呼べるのだろうか？清々しさなどより、悔しさの方が強い。彼ら自身は、どうだったのだろうか？

71 回生学年全体はどちらかというと自由な雰囲気強い学年だった。どの部活動でもそうだったのでないだろうか。新宿高校生らしいと言えばそうかもしれない。臨海教室では魔法がかかったように統率のとれた様子を見せ、修学旅行で地元の人々と触れ合う様はとても生き生きとしていた。合唱コンクールでは担任団が皆驚いてしまうほどの集中力を見せつけられた。

そんな彼らも、やがて受験という明確な結果の出る勝負に加わっていった。早い時期から受験受験と追い立てられ、模試の判定に一喜一憂する。いざ勝負の時期を経て、その判定を大きく覆して結果を出すものも多くいた。逆の例ももちろんあった。また結果とは別の意味で「良い勝負」とならなかった生徒もいた。全体としては確かな成果をあげたのだろう。しかし、いろいろな「勝負」があった中、一人一人はどう感じ卒業していったのだろうか。

サッカーでは昨年、日本代表が W 杯の優勝候補ベルギーに接戦を演じ、「良い勝負」をしたと称賛された。が、ベルギー選手は試合終了まで残り数秒のところでも味方を信じて全員が全力で走っていたのが誰の目にも明らかだった。技術で上回っているチームがそれほど互いを信頼して全力でプレーしていれば、勝ち目などあるはずがない。惜しく見えても完敗だ。

私たちが戦ったあの試合も、完敗だった。相手は、私たちよりもほんの少し真剣に注意深く、自分たちがすべきことに取り組んできた。そして結果を出した。受験でうまくいった者もそうだろう。真剣さを他よりも多く積んだのだ。うまくいかなかった者はそれが少し足りなかった。それだけのことだ。

ただ、三年も時間を共有すると、最後の結果以上に見えてくるものもある。今、一人一人がどんな風に結果を受け止めていようとも、彼らはきっといつか、この先出会う仲間たちと、お互いを信頼し合って全力を出し切れるチームを作り上げる。親ばかりのように思われるかもしれないがそうではない。新宿高校には、そういう人間を育てる何かがあるのだ。

だからこそ、彼らと過ごした日々の中、あの時もっとこうできたのではないだろうか、などと悔しく思ったりすることもある。でも、いろんな場面を必死で駆け抜けた彼らの表情を思い出すと、自分も全力で走らないと、と感じてしまう。彼らがそれぞれの場所で今も全力で生きているなら、自分もそうしないと、と思う。もう他人なのに。あの生徒たちとの、先生方との三年間は、そういう思いも残していった。



□ 2019 大学合格者数

大学合格状況（現役・既卒生 4/18 現在）

主な国立大学等			主な私立大学（延べ）		
	現役	既卒		現役	既卒
北海道大	3	2	青山学院大	23	2
岩手大	0	0	学習院大	4	2
山形大	0	0	北里大	6	1
東北大	2	1	慶應義塾大	18	5
山梨大	0	1	國學院大	2	1
筑波大	4	0	駒澤大	15	2
千葉大	10	1	芝浦工大	37	7
埼玉大	1	1	上智大	18	4
東京芸術大	1	1	成蹊大	6	3
電気通信大	2	1	成城大	5	4
東京大	3	1	専修大	8	1
東京医科歯科大	1	0	中央大	34	9
名古屋大	1	0	津田塾大	2	3
東京外語大	4	0	東京女子大	6	1
東京学芸大	11	3	東京農業大	27	4
東京工業大	3	0	東京薬科大	11	0
東京農工大	7	2	東京理科大	41	11
一橋大	2	2	東洋大	29	2
首都大学東京	21	4	日本大	33	7
横浜国立大	5	2	日本女子大	13	3
横浜市立大	0	1	法政大	51	8
信州大（医学部）	0	1	東京都市大	4	2
静岡大	0	2	武蔵大	4	1
京都大	1	0	明治大	80	22
福井大（医学部）	1	0	明治学院大	10	2
茨城大	0	1	立教大	50	7
神戸大	0	1	早稲田大	43	16
その他	5	2	その他	97	21
計	89	31	計	677	151
	120			828	

この春の大学合格者数がまとまりました。

国公立大学（文科省以外が所管する大学校を含む）の合格者数は、現役と浪人生を合わせて 119 名になりました。昨年は 104 名でしたので、大幅に増加したと言えます。中でも東京大学の合格者数が現役 3 名となり、これまでにない成果でした。

一方で慶應義塾大学の合格者数が昨年の 28 名から 23 名となっています。これは大学側が合格者数そのものを減らした煽りを受けたものと思われる。

○赤本ルール

進路室前の廊下と、隣の資料室に赤本が置いてあります。赤本とは大学の過去の入試問題を大学ごとに一冊の本にしたものです。

使い方 今回の時期では、それぞれの大学の出題傾向や難易度をチェックするのに使います。時間を計ってやってみても、今はまだ合格点には届かないかもしれませんが、傾向を知り、対策を講じるために使ってください。入試直前期には文字通り、自分の力試しに活用します。

ルール 廊下に置いてある貸出簿に必要事項を記入すれば借りられます。冊数や期間は特に制限していませんが、みんなが使うものですから常識の範囲内をお願いします。12月になると冊数、貸出期間を制限します。あらためて連絡します。

○医師・看護師体験の案内

進路室前の廊下掲示板にさまざまな案内のポスターが掲示してあります。将来、医師や看護師を目指している人は、一日体験をしておくとお面接試験のときに有利かもしれません。

ちょっと遠回りでもときどき進路室前の掲示板を見るようにしましょう。

祝！入学 74 回生

4月9日、新宿高校第74回入学式が挙行され、
新生318名が入学しました。そして休む間もなく
10日のセミナー講習に出かけ、オリエンテー
ションなどで新宿高生としての心構えを学んでき
ました。12日金曜日からは待ちに待った授業が始
まっています。そこでアドバイス。

とにかく最初が肝心です。とりあえずは5月の
中間考査を意識して準備をしましょう。

その1. 勉強する習慣をつけよう！

毎日予習！復習！

高校の授業で驚くことは各科目の専門性とその
進み具合でしょう。特に授業の進度は中学校とは
比較になりません。今日習ったことは翌日には既
に皆が完全に理解したものとして、それを基礎に
して先へ進みます。毎日の予習、復習は欠かせま
せん。

その2. 定期考査は100点を目指そう！

定期考査は出題範囲が決まっています。ほと
んどが授業で習ったことです。100点を取れ
ないことはないのです。平均点以上とることで
満足せず、是非満点を目指して取り組みましょ
う！

目標は「全員が満点」。

その3. 先生に質問しよう！

授業でわからないところは、積極的に担当の

先生に質問しましょう。教員室の座席は教科ご
とに並んでいます。担当の先生が不在でも、そ
の近くの席の先生に尋ねてみましょう。授業以
外のわからないことは担任の先生に相談しまし
ょう。

自分から動き、声を出すことが肝要です。

○今年度の進路指導部の先生

進路部 専任	加藤 義彦 先生 (主任・数学) 大谷先生 (副主任・日本史) 辻井先生 (国語) 上松先生 (化学) 日比野先生 (数学) 峯先生 (国語) 宮田先生 (英語)
1 学年	坂本先生 (数学) 吉川先生 (英語)
2 学年	佐藤先生 (地歴) 笠原先生 (英語)
3 学年	飯島先生 (公民) 浜中先生 (英語)

進路指導室には、加藤、大谷、浜中の各先生が常
駐します。進路に関わる相談など、用事がある時
きは訪ねてください。

また、進路指導室の隣が「進路指導資料室」に
なっています。ここには廊下に置ききれなかった
赤本や、各大学のパンフレットなどの資料がおい
てあります。大学のパンフレットはまだ昨年度の
ものです。

先輩からの言葉

新宿高校から始まった私の「グローバル体験」

名古屋大学大学院経済学研究科教授
元 三井物産株式会社勤務

24 回生 佐野良雄

昭和44年(1969年)新宿高校に入学しまし
た。塩見臨海学校、学園祭、合唱祭など思い出
深い出来事がたくさんありましたが、高校では
バレエ部に所属し、3年間のクラブ活動が私の

高校生生活の中心でした。教科で好きだったの
は英語でした。中学生のころから英語に興味が
あり、高校でも得意科目でした。戦時中は駆逐
艦に乗船されていたという海軍仕込みの英語を

使う大脇先生の英文法は迫力がありません。大橋先生はリーダーを片手で支えて華麗に英語を話されていました。尾造先生は英語の原著を多く引用され、シェイクスピアの「ハムレット」に出てくる有名な“Frailty, Thy name is woman.”(弱きもの、汝の名は女なり)などを教えて頂きました。今も授業で教えられた内容を明確に覚えています。興味があり好きだったことはいつまでも覚えているものです。敬虔なクリスチャンであられた沢先生には授業で教えて頂く機会はなかったのですが、課外で聖書購読や讃美歌斉唱をご指導頂き、キリスト教に基づいた西洋の哲学や文学、美術などに対する考え方の基礎を学ぶことができました。米国の宣教師が主宰するバイブルクラスを紹介して頂き、大いに英語の実力に磨きをかけたものです。高校卒業後の大学の進路選択や会社での英国勤務において異文化理解に関する基礎を作ったものと感謝しております。

大学は上智大学外国語学部英語学科を選択しました。英語に興味があったこと、将来英語に関係する職業に就きたかったことが理由です。上智大学はイエズス会宣教師を中心として外国語・外国文化教育を重視する大学です。この機会に多くの先生に教えを受け留学生と交流することができました。大学生時代に海外に行くことができなかつたので、今の学生を見ると海外に行く機会が多くありうらやましい限りです。

就職は三井物産を選択しました。国際的に活動しており、海外勤務の機会が得られると考えたためです。エネルギー部門に配属され、入社二年目には初の海外出張(マレーシア、アブダビ、フランス、英国)を経験、三年目には「英国修業生」として、一年間のOxford大学での学務研修と一年間のアフリカ・ザンビアでのOJT(実務研修)を経験する機会を得ました。海外の居住経験としては初めてであり、アジア、中東、欧州を経験したことにより大いに国際経験を広げることができたと確信しています。

さらに海外勤務として英国に2回、合計12年半に亘って駐在し、欧州を始め多くの国でたくさんの人と仕事をしてきました。仕事をする上での基本は常に相手(顧客、サプライヤーなど)と会話を重ね、お互いにベストな結論を導き出すことでした。商社に働く者として当たり前のことをやっていることなのに、それが相手に評価してもらえらるようなこともあり、当然のことが相手にとって重要なことなのだと感じさせられることが多かった海外勤務でした。

37年の三井物産年勤務の後、縁あって名古屋大学経済学研究科教授に就任しました。大学として、「産学連携」を強化する事務経験のある教員を採用する基本方針の基で採用されたものです。教員として心掛けたことは、やや内的な学部学生に対してできるだけ外の世界を見てもらう海外に引っ張り出す機会を多く提供したこと、また留学生に対しては日本企業の現状、特に悪いことも含めて包み隠さず伝えたことにより、理解を深めるよう教育したことです。これにより、将来一人でも多くの卒業生がグローバル舞台において、また留学生が母国と日本の懸け橋となって活躍されることを希望しています。

思いかえすと私のグローバルの体験は新宿高校から始まっています。英語の先生方に未知なる世界や海外への目を開かせて頂いたことがその後の人生の重要な部分を占めています。「将来何をやるべきか」ではなく「今何がやりたいか」を自分のキャリアの基軸に据え、それをどのように将来に繋げられるかを考えてもらえればよいと思います。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

